

「連星系・変光星・低温度星研究会」の歩みなど
—連星系からの立場で—

中村泰久（元福島大学）

研究会の終了前に恒例のビジネスセッションが行われ、その中で次回開催地についてとともに、この研究会の来し方や今後のあり方について話し合われた。その際に記憶にしたがって話したことが若干違っていたり、また、この会に若い人たちが多く参加するようになったこともあるので、この20回目の集まりを機会に今までの歩みを資料的にまとめて、お許しを得て集録に載せていただくこととした。なお、サブタイトルとして付したとおり、この数え方等は連星系研究の立場からのものであることをお断りしておく。

この会は当初は主として連星系関係者だけの研究会で、とくに初回は集録も含めてまさしく手づくりの研究会と言ってよく、毎年開くか（開けるか）どうかなどはまったく未定の中での開催であった。次の会は美星天文台が力を入れている“アマとプロの交流”のためのワークショップとして開催できた。そのためにも連星だけではなく変光星も対象に含めての会となり、J A P O A や V S O L J と共に共催の形で入ることとなった「連星研究会」を急遽つくった（が、実態ほとんどなし）のも懐かしい思い出である。

回数ないしは年号が付き始めたのは途中の5回目からであった。連星系だけではなく変光星関係も正式に加わったのは第4回の西はりま天文台での会合からで、さらに第12回からは低温度星グループとも一緒になった。いずれの時も敬意(?)を表していただき、連星を名称の先頭においてもらっている。

なお、会や集録の名称に“連星系”とあったり“連星”とあったりしており、また区切りも“・”だったり“/”だったりさまざまで、統一は取られていない。さらには、会自体も「ワークショップ」だったり「研究会」と称されたりで、これらはどうやらその時に世話人会の“裁量”で決められている。（注：この原稿のタイトルは、今回の「研究会」の名称の記法にしたがったものです。）

◇資料：これまでの研究会（ワークショップ）

開催場所（or 開催地）	開催期間	
1 川崎市黒川野外活動センター	1995. 1. 21-22	*注 1
2 美星天文台	1996. 12. 7-8	*注 2
3 秋田市・久保田会館／秋田大学手形キャンパス	1997. 11. 22-23	*注 3
4 西はりま天文台	1998. 12. 11-13	*注 4
5 群馬天文台	1999. 11. 22-23	*注 5
6 滋賀県多賀町・ダイニックアストロパーク天究館	2000. 11. 25-26	
7 岡山理科大学	2001. 12. 8-9	
8 放送大学群馬センター	2002. 12. 7-8	
9 郡山市ふれあい科学館	2003. 11. 29-30	
10 相模原市立博物館	2004. 12. 4-5	
11 国立科学博物館新宿分館	2005. 11. 29-30	
12 西はりま天文台	2006. 12. 2-4	*注 6
13 東京大学駒場キャンパス	2007. 11. 17-19	
14 鹿児島大学郡元キャンパス	2008. 11. 29-12/1	
15 広島大学東広島キャンパス	2009. 12. 12-14	
16 東北大学青葉山キャンパス	2010. 11. 19-21	
17 京都産業大学神山天文台	2012. 02. 17-19	*注 7
18 長野県上松町・ねざめホテル	2012. 12. 14-16	*注 8
19 九州大学箱崎キャンパス	2013. 11. 23-25	
20 大阪教育大学天王寺キャンパス	2014. 11. 29-12. 1	

【備考】

*注1：集録名「連星系川崎研究会／勉強会」（図1）

*注2：年は連続しているが、年度は1年空いた。美星天文台「アマプロ交流ワークショップ」として開催。集録名「変光星／連星の観測」（図2）

*注3：集録名「連星系秋田研究会」集録（図3）

*注4：第8回西はりま天文台ワークショップとして開催。この回から“変光星”も会の名称に入った。集録名「連星系／変光星研究会」集録（図4）

*注5：この回から会の名称に年号が入った。集録名「連星／変光星ワークショップ1999」（図5：この回だけB5版で、かつ表紙がカラー）

*注6：第17回西はりま天文台シンポジウムとして開催。この回から低温度星グループが合流。集録名「連星系・変光星・低温度星研究会集録」（図6：この回はCDのみで紙版集録なし）

*注7：2011年度分として開催

*注8：ホスト機関は国立天文台木曾観測所



図1：1回目集録

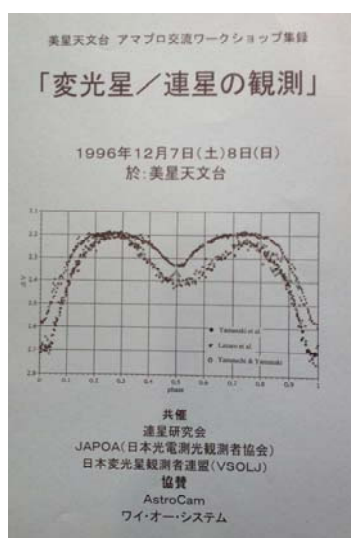


図2：2回目集録

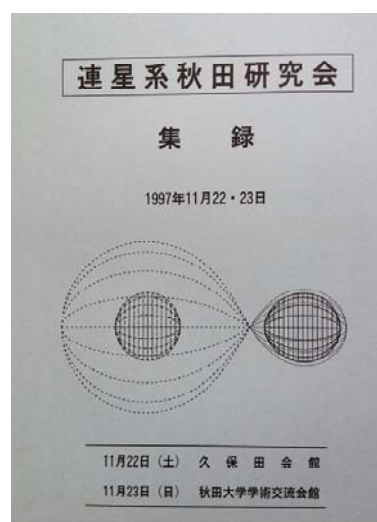


図3：3回目集録

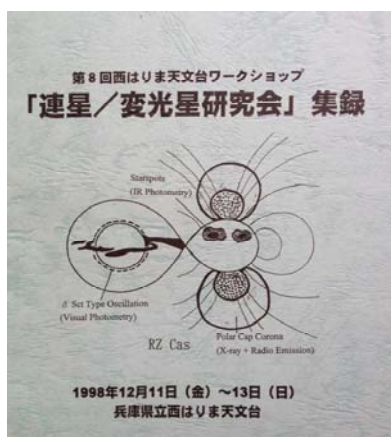


図4：4回目集録

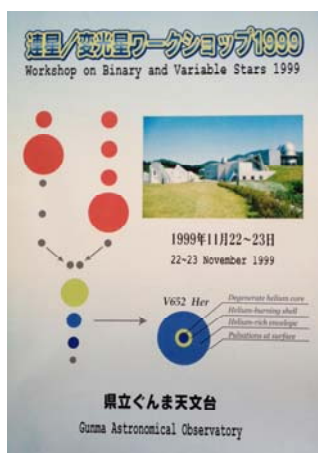


図5：5回目集録



図6：12回目集録

追記：

ビジネスセッションでは会の名称が長いという話も出て、今後考えてゆくこととなった。これに関して、長く関わってきた立場としては、いずれは高分散その他のグループも参加していただける“恒星全体”の研究会（恒星研究会）となればよいと考えている。恒星は総体として考究すべきであるからである。若い人たちへ期待すること大である。